

2022年度 日産財団理科教育助成 成果報告書

テーマ：SDG s の取り組みに繋げ 明るい未来として前を向いて歩ける科学的視点を培う

学校名：海老名市立今泉中学校

代表者：成岡 誠司

報告者：野田 啓司

全教員数： 37名

全学級数・児童生徒数：18学級・620名

実践研究を行う教員数： 11名

実践研究を受けた学級数・児童生徒数：6学級・216名

※ご異動等で現職の方では成果発表が難しい場合、上記代表者または報告者による代理発表を可といたします

1. 実践の目的（テーマ設定の背景を含む）

今年度、1年生は初めてのSDG sを知り、考え、各自が実践していこうという取り組みをスタートさせた。すでに、SDG sとは何か。その取り組みにどのようなものがあるのかを学習した。その中から、個々に自分の目指そうとする課題を選択し、その課題の意味と取り組みを理解し、今後自分ができる取り組みを明らかにした。この各自の学習を四つ切画用紙に、項目ごとにまとめ、各教室の廊下に掲示し、お互いの取り組みを共有しているところである。

一方、未来に目を向けると地球温暖化をはじめとして、地球環境（特に気候変動）、食料問題、科学の進歩と平和の問題等、将来を明るく見ることができにくくなる課題が重大な壁となって立ちはだかる。そのような中でも、私たち人類は今までの経験や様々な知見や科学的な技能を活かし、これからの将来を明るく見る視点と前向きに進める確かなものを学び、生徒一人一人の未来への歩みを支えていく力を身につけさせたい。そのために、この3年間で学習する理科の単元、社会科の単元、その他各教科の単元で学ぶ内容と、このSDG sの取り組みがリンクし、より発展的にSDG sの具体的な取り組みの可能性を考え、議論し、実際の形にしていかせたい。そのためのアイデアにつながる、実際に取り組まれていること、今後未来に向けて可能な取り組み、新たな可能性をもった考えを見聞きすることを通して、前述した力を持たせたい。

2. 実践にあたっての準備（機器・材料の購入、協力機関等との打合せを含む）

1. 小田原市役所

各事業所との打ち合わせ、各事業所への依頼状提出、下見

2. 公益財団法人 横浜観光コンベンション・ビューローとの情報交換

横浜駅周辺の「かながわSDG sパートナー」認定企業との打ち合わせ、各事業所への依頼状提出、下見
企業への生徒のお礼状の送付

株式会社ファンケル によるZoomによるSDG s講話の依頼と打ち合わせ

3. 実践の内容

1. 9月1日の校外活動

- ① 「SDGs 未来都市」小田原市を訪ね、小田原市 SDGs 体験事業にチャレンジし実体験を通した学習をする。
- ② 6人1班のグループで学習テーマを決め、事前に選択した企業について見学・体験場所を調べ情報収集し、実際に訪問し、学びを深める。
- ③ 事後は、班ごとにクラス内で学んできたことを発表し合う。

2. 11月29日の校外活動

- ① 「SDGs 未来都市」横浜市の企業を訪ね、小田原校外学習で学んだSDGsへの学びを更に深める。」ということで、横浜駅周辺の「かながわ SDGs パートナー」認定企業の27企業のうち1企業と事前に質問事項を送付し、当日訪問し、見学・説明を受け、質問に対する回答を受けるなど情報収集と交流を行う。
- ② 6人1班のグループで学習テーマを決め、事前に選択した企業について見学・体験場所を調べ情報収集し、実際に訪問し、学びを深める。
- ③ 事後は、班ごとに壁新聞づくりを行い、各クラスの廊下への掲示を通して、学んできたことを発表し合う。
- ④ 「かながわ SDGs パートナー」認定企業の1企業である化粧品や健康食品を生産・販売を行う企業との学年生徒全員との Zoom による学習会を実施し、自分たちが訪問した企業以外の取り組みを学ぶ。

4. 実践の成果と成果の測定方法

1. 9月1日実施の校外活動では、「SDGs 未来都市」小田原市について事前学習し、現地を訪ね、「誰一人取り残さない持続可能な社会」の実現に向けての理解を深めることと、小田原市 SDGs 体験事業にチャレンジし実体験を通じた深い学びを得るということを主目的で行った。6人1班のグループで学習テーマを決め、事前に見学・体験場所を調べ、情報収集した。ある班は、御幸の浜海岸にてビーチクリーンに取り組み、レストランにて話を伺い、質問に対する回答を得てきた。このレストランは会社として、農業部門、調理部門、加工部門と専門部門を明確にし、地産地消と廃棄物を出さないための加工食品の開発、生産段階での土壌改良や農薬の減量を行っている。具体的な SDGs の取り組みとその方法をわかりやすく学ぶことができた。事後は、班ごとにクラス内で学んできたことを発表しあった。企業の SDGs の取り組みと自分たちの生活を重ね合わせた考察ができた。

2. 11月29日実施の校外活動では、「SDGs 未来都市」横浜市の企業を訪ね、小田原校外学習で学んだ SDGs への学びを更に深める。」ということで、横浜駅周辺の「かながわ SDGs パートナー」認定企業の27企業のうち1企業と事前に質問事項を送付し、当日訪問し、見学・説明を受け、質問に対する回答を受けるなど情報収集と交流を行ってきた。事後は、班ごとに壁新聞づくりを行い、各クラスの廊下への掲示を通して、学んできたことを発表し合った。

なお、12月12日に、化粧品や健康食品を生産・販売を行う企業との学年生徒全員との Zoom による学習会を実施し、自分たちが訪問した企業以外の取り組みを学んだ。「現在の自分の行動を変えることで未来を変えていこう」という投げかけをしていただき、自分の行動を変えていこうとする考えを深めた生徒が増えた。

5. 今後の展開（成果活用の視点、残された課題への対応、実践研究の可能性や発展性など）

3学期に入り、次年度の修学旅行に向けて、これまで取り組んできた取り組みをより深め発展させるために、「SDGs 未来都市」に認定されている京都市がここまで持続してきた理由を探求し、これからの自分たちが住み続けていく街について考えるということで、修学旅行向け SDGs 探求プログラム「^{きゅーと}Q 都す + ラディトリップ」を通して、企業を選択し、具体的な企業の取り組みに対し、以下の例のような疑問とミッションについて生徒が個々に仮説を立て、企業と Zoom で交流を行い、この交流を継続し修学旅行につなげていく。

例：なんで日本初の小学校が京都から始まったの？

○世界の現状

SDGs の目標達成には年間 2 兆 5000 億ドルもの資金が不足

世界の社会的責任投資 過去 2 年間で 34%増加

日本の政府開発援助（ODA）額 2.7%（およそ 40 億ドル）減少

国連グローバルコンパクトネットワーク 日本の加入企業数は 464 社（2022）

○ミッション

なぜ京都の人たちは国の制度ができるのを待たずに学校をつくったんだろう？

パートナーシップがなかったら、SDGs の達成が難しくなるのはなんでだろう？

6. 成果の公表や発信に関する取組み

※ 研究会等での発表や、メディアなどに掲載・放送された場合もご記載ください

企業の HP に活動が紹介された。

7. 所感

この取り組みを通して、「現在の自分の行動を変えることで未来を変えていこう」という前向きな未来像を持ち、自分の行動を変えていこうとする考えを深めた生徒が増えたことは、成果だと感じる。また、今後も3年生の修学旅行へ向けた取り組みにつながっていることは、一過性の取り組みではなく個々の生徒に SDGs を通した未来への行動への態度が高まっていくことを期待できる。